

クローバー

高度な技術をもって根治目標に到達する



副院長
宗本 滋

能登半島地震後の復旧、復興がさらに進むことをお祈りしています。

脳神経外科手術医として高度な技術を開発、駆使して、多くの患者さんを救ってこられた福島孝徳先生が

2024年3月に81歳でお亡くなりになりました。そのご活躍はマスコミに取り上げられ、人々の記憶に残りました。

福島先生がマスコミで有名になられる前には国内の学会で卓越した手術を供覧しておられましたので、少し、お話をし、学ばせてもらう機会がありました。

そのご縁で海外でもご一緒する機会がありましたのでその記憶を記述しておこうと思います。各項目のタイトルにあるのは先生のお言葉です。

「手術は直接見に行かなきゃ」

メイヨークリニックにて 1985年(昭和60年)

福島先生は三井記念病院の部長時代から「手術は直接見に行かなきゃ」とおっしゃっておられ、海外にも出かけておられました。

福島先生は東京大学脳神経外科の時代にアメリカのメイヨークリニックに留学されていたことがあります。クリニックというと日本では診療所を思い浮かべます

が、メイヨークリニックとは世界中から患者さんがやってくるアメリカで歴史ある屈指の総合病院です。

国際学会のあと福島先生がメイヨークリニックへ立ち寄られるということで、数名の日本人脳神経外科医とともに私も同行する機会を得ました。この時にはスギタクリップで有名な信州大学の杉田教授がメイヨークリニックでご講演されるということもあり、早朝から講演カンファレンスにも参加させていただきました。脳神経外科医、神経内科医、神経放射線科医など神経に関係するほかの先生方も聴講、討論されるものでした。(写真1)



写真1 1985年7月13日 Sundt.Jr.教授を囲んで
前列向かって左から杉田教授、Sundt.Jr.教授、福島先生
後列 中央 筆者 メイヨークリニックにて

その後、手術室、研究室、図書館など病院内を見て回り、夕にはレセプションが続きました。当時、療養中であった脳血管外科手術で高名なSundt TM, Jr教授も出席、歓談されました。また、メイヨー神経病理学の岡崎教授も参加していただきました。

高度な技術をもって根治目標に到達する

「優れた手術で完治を目指す」

南カリフォルニア大学病院にて 1993年(平成5年)

福島先生は南カリフォルニア大学の頭蓋底外科教授として渡米され、「優れた手術で完治を目指す」という理念を掲げられ、米国での活躍が始まりかけた頃です。

南カリフォルニア大学病院の手術室で先生とともにいるときの写真です。(写真2)福島先生は手術を大学病院で行う傍ら、ロサンゼルス郡の病院に出かけ、若手に手術を指導するという生活をしておられ、私は両施設で手術をご教示いただきました。

アメリカでは高額医療保険に加入している裕福な人は大学病院などの一流病院で手術、一方、私的保険に制限のある人は郡の病院などで治療を受けているようでした。こちらにはいろいろな階層の患者さんがおられ、銃による外傷の方も運ばれてくる病院であり、病院の廊下の角には拳銃を所持した警察官が椅子に座って警備している状況でした。

南カリフォルニア大学で新進気鋭の脳神経外科医として大学の季報に取り上げられていた頃です。写真表紙が福島先生、内容には福島先生の得意



写真2 1993年10月26日 南カリフォルニア大学病院手術室にて
福島先生と筆者



写真3

1993年
南カリフォルニア
大学病院冬号表紙
福島孝徳教授



写真4

鍵穴手術中

の手術が取り上げられています。(写真3、4)

筆者が1993年訪問時にいただいたものです。

心臓や、肝臓などのほかの臓器とは異なり、脳や頭蓋底骨は精緻微細な構造であり、高度な技術はご遺体の微小解剖の実践理解に基づくものでありました。「高度な技術をもって根治目標に到達する」時代になってきていると言えるでしょう。

脳神経外科手術時代の最先端牽引者であった福島先生にご教授いただいたことを多少なりとも臨床の場に還元活用できたことは私の貴重な体験となりました。

現代は医学のさらなる進歩に期待を持てる時代です。

連携登録医のご紹介

医療連携とは

地域の医療機関と金沢脳神経外科病院の相互連携を一層緊密にし、適切で切れ目のない医療の連携を目指し開始された「連携登録医制度」に登録していただいている医療機関の先生方です。

今回は、金沢市豊穂町の「こじま内科クリニック」をご紹介します。

当院は金沢市みどり団地近くにあります。

開院する少し前、2020年1月、国内で初めて新型コロナウイルス感染症患者が確認され、その後、感染者数は増加し感染拡大をみせる中、「住民の健康を見守るかかりつけ医の後継を頼みたい」と西村邦雄先生より医療承継のお話をいただきました。その思いと「地域医療に貢献したい」と思っていた私の願いが合致し2021年4月「こじま内科クリニック」を開院しました。

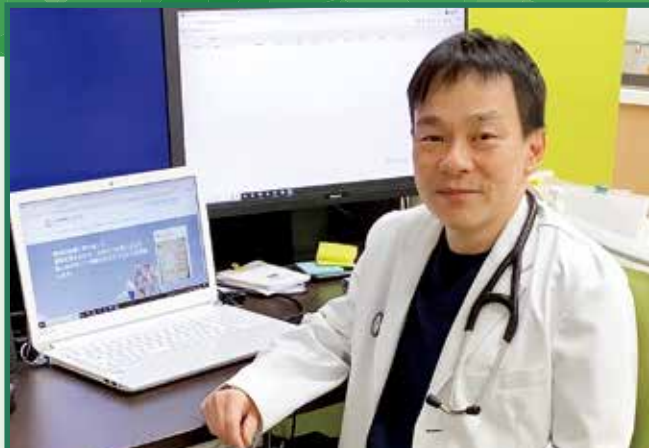
私は呼吸器、アレルギー専門医として気管支喘息、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、咳、睡眠時無呼吸症候群などの呼吸器疾患、総合内科専門医として糖尿病や高血圧といった生活習慣病など内科全般にも対応いたします。

その一方、クリニックでは対処困難な病態・病状と判断した際は速やかに医療連携をとり良質な医療提供ができるように心がけています。お悩みごとがありましたらお気軽にご相談下さい。スタッフ一同皆様のご来院をお待ちしております。



取材スタッフより

優しいお人柄を感じるあたたかい先生でした 😊



院長 小島 好司 先生

【保有資格】日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
日本睡眠学会睡眠専門医
日本アレルギー学会アレルギー専門医
日本医師会認定産業医
医学博士号

【略 歴】2002年 私立金沢医科大学医学部卒業
2006年 私立金沢医科大学大学院(内科学Ⅰ)修了
2007年 金沢医科大学呼吸器内科学 助教
2011年 市立砺波総合病院呼吸器内科 医長
2012年 金沢医科大学呼吸器内科学 助教
2019年 医療法人桂名会
みんなの徳用クリニック 院長
2020年 医療法人桂名会
みんなの二口町内科クリニック 理事
2021年 こじま内科クリニック 院長

【診療科】内科・呼吸器内科・アレルギー科

【住 所】金沢市豊穂町3

【電 話】076-249-2045

【診療時間】

	月	火	水	木	金	土	日
9:00-12:00 受付時間 9:00-11:45	○	○	○	/	○	○	/
14:30-18:00 受付時間 14:30-17:45	○	○	○	/	○	※	/

休診日：木曜・日曜・祝日

※土曜午後14:30～17:00

※受付時間14:30～16:30



セル看護提供方式®導入の背景と今後の取り組み

看護副部長 辻田 里美

当院は、脳神経外科専門病院として地域の医療を担っています。近年、救急搬送の増加、高齢患者・認知症患者の増加に伴い、患者さんに安全で安心してもらえる環境の提供がより重要な課題となっています。さらに、看護師や看護補助者の負担増加、新型コロナウイルス対応による業務のひっ迫、残業の増加、職員の疲弊やストレスの増大など、さまざまな課題が浮き彫りになっています。

こうした状況を改善するため、「患者さんに安全・安心な環境を提供しつつ、職員が楽しくやりがいを持って働ける環境をつくる」ことを目指し、「固定チームナーシング」から「セル看護提供方式®」へ移行することとしました。

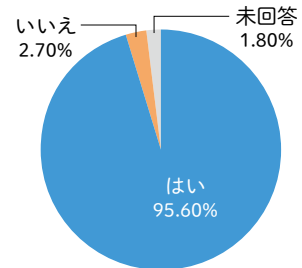
セル看護提供方式®は、看護師が主体的に判断し、患者さん一人ひとりに寄り添うことで、より質の高い看護を提供することを目的としています。これにより、「大変さをやりがいに変え、職員が達成感を持って働ける」職場づくりを目指しています。

セル看護提供方式®を推進していくにあたり、看護部のビジョンとして、「患者・家族が大切にされていると感じてもらえる看護・介護」としました。患者さんの側で寄り添い、安全で安心してもらえる看護・介護の提供を実践し、患者さんや家族の思いを尊重する姿勢を大切にしていこう。また、職員がやりがいや目的を持って成長できる環境づくりに力を入れていきたいと考えました。

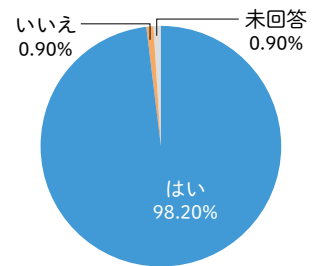
今年度から、全病棟がセル看護提供方式®へと変更しているため、まだまだ課題は沢山あります。現在のセル看護提供方式®について職員へアンケートを実施したところ、多くの職員がセル看護提供方式®への導入の経緯や、どのような看護提供方式かについては理解しているという結果となりました。一方で、看護部のビジョンの認知度は42.5%にとどまる結果となりました。

今後は、取り組んだ結果を振り返り、カイゼン活動などの成功事例の共有を通じて、ビジョンの浸透を図り、看護部職員が目標を持って看護・介護が実践できる環境づくりをさらに進めていきたいと思えます。

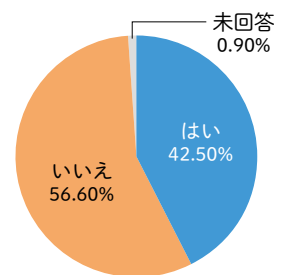
固定チームナーシングからセル看護提供方式®へ変更するのはなぜか理解できていますか



セル看護提供方式®とはどのような看護方式か理解できていますか



当院のセル看護提供方式®ビジョンを知っていますか



病院
理念

私たちは脳神経外科医療の専門家として十分な医療を提供し社会に貢献します。



医療法人社団 浅ノ川
金沢脳神経外科病院

石川県野々市市郷町262-2
TEL:076-246-5600 FAX:076-246-3914
<https://www.nouge.net>

金沢脳神経外科病院 広報誌 第93号 発行:広報委員会
2025年2月28日発行